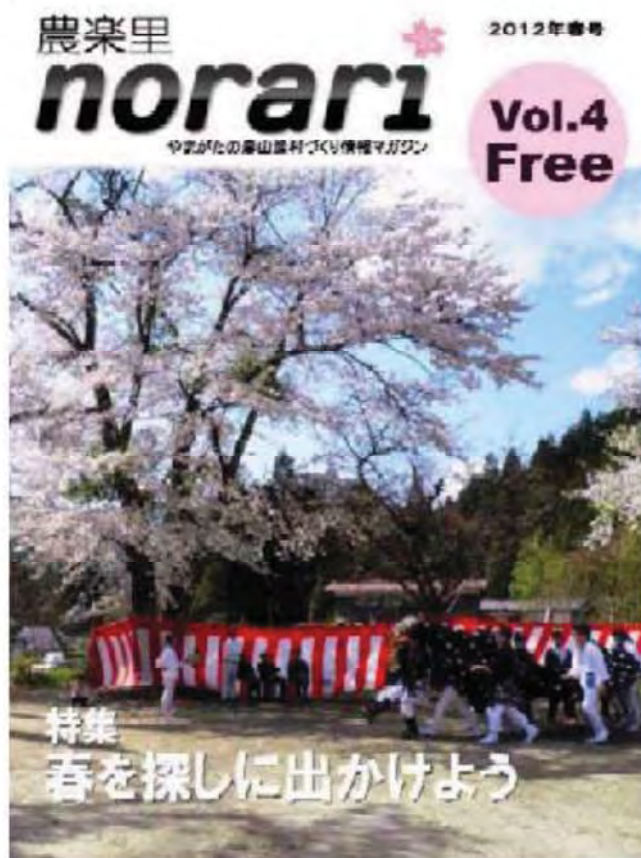


春号発刊！

農楽里(のらり)

この度、農山漁村づくり情報誌「農楽里(のらり)」の春号が発行されました。
庄内に関する内容としては、「やまがたの棚田20選」に選定されている、
鶴岡市暮坪の棚田や水土里ネットいなばの田植え・孟宗掘り体験、やまがた
生まれのいちご「おとめ心(おとめごころ)」が紹介されています。

フリーマガジンとなっていて、庄内総合支庁ロビーにありますのでご自由
にお持ちください。



大鳥の春はまだ・・・

4月15日、鶴岡市大鳥地区に行って来ました。

2年連続の大雪で3m50cmを超えた積雪も、1m70cm位まで少なくなっていました。東大鳥川(赤川)の水量が少ないようですが、朝日連峰はまだ冬で気温が低いので、雪解けが進んでいないからです。大鳥の春はまだ先ですが、河畔の柳はもう芽を出していました。

さて、3月中旬から4月中旬にかけては、山里の暮らしに大変重要な時期です。雪が締まり山から木材を搬出するのに好都合だからです。昔はソリを使いましたが、今はキャリアで道路まで運び、雪が消えてから軽トラで運んでいます。運んだ木材は割り積み重ねて乾燥させ、次の冬に備えます。写真はブナで、この量でほぼ1冬分の薪になります。

大鳥でも昭和50年前後に薪ストーブの使う家が少なくなりました。森林資源がエネルギーとして注目されていますが、薪ストーブの暖かさが見直され、ここ10年位の間にほぼ全戸で使用するようになりました。



東大鳥川:左岸に柳の群生地



柳の芽:ここは積雪2m以上



伐り出したブナと運搬用の通路



玉切りにし道路沿いに並べたブナ

巡視員辞令交付式

お願いします！

4月13日(金)農地地すべり巡視員辞令交付式が行われました。

庄内地域には、5つの農地地すべり区域があります。区域の近くに住み、地元の実情に精通している方を農地地すべり区域の巡視員として任命し、月1回の点検を行うほか、地震などの緊急時には、いち早く危険を察知して、当課へ連絡する等、その区域を守る”仕事人”として活動いただいています。

新潟、肘折等の地域で地すべりが発生している現在、巡視員の方々の地道な活動が地域の安全を支えています。



西郷北部のミズバショウ

ご覧下さい

昨年、ほ場整備事業「西郷北部地区」で株分けしたミズバショウが見事に咲きました！

小ぶりでかわいらしい花が咲いています。

庄内総合支庁ロビーに飾ってありますので、お立ち寄りの際はぜひご覧下さい。



春のきざし

4月29日、2週間ぶりに鶴岡市大鳥地区に行って来ました。

集落の中は50cmまで少なくなりましたが、集落の回りには、まだ1mを超える積雪がありました。

それでも西向きの崖、湧き水の流れ込む湿地や小川には、山野草が早くも花を咲かせていました。

ところで、去年の秋にカメムシが大発生したのをご存知でしょうか。カメムシの大雪予報は的中でしたが、建物の隙間で一冬を過ごしたカメムシが暖かくなるにつれ大量に出てきました。西側の窓は午後になると真っ黒になるほどです。



東大鳥川(赤川):水量が増してきました



カタクリ



ミズバショウ



リュウキンカ(つぼみ)

自然観察学習会(イベント情報)

山野草をたのしむ会

鶴岡市(旧朝日村)大鳥自然の家にて自然観察学習会が開催されます。

大鳥の自然で山を歩きながら、春の野草・山菜を探して見ませんか？
山野草マップを見ながら散策。自然の春を感じて山野草をたのしむ会に参加してみませんか。

日 時：5月20日(日)午前10時～午後2時(雨天決行)
会 場：大鳥自然の家周辺 鶴岡市(旧朝日村) [\(地図PDF91.5KB\)](#)
参加料：300円
持ち物：昼食・雨具

○ 申込み・問合せ:5月17日(木)まで直接または電話で大鳥自然の家まで
TEL 0235-55-2946

広報『つるおか』5月1日号に掲載されています。



※参加に対する保険加入は大鳥自然の家では対応しておりませんので各自ご準備願います。

次回6月17日(日)開催予定。種類も増えて新たな発見があるかも
詳細は近日公開予定

元気いっぱいです！

5月13日(日)鶴岡市温海の暮坪地区で恒例の田植え体験が行われました。
地区の親子約30人が参加して「はえぬぎ」と「ヒメノモチ」の苗を手植えました。

前日までの雨はやみ、少し肌寒い中、半袖・半ズボンの子供達もいて、
田んぼに足を入れるまではなかなか時間がかかりましたが、一度入って
しまえば大騒ぎ！泥だらけになりながら、秋の収穫を今から楽しみにしています♪

この様子は当日の夕方5時過ぎのYBCニュースでも取り上げられ、14日の山形新聞
にも掲載されました。

皆さん、「海が見える棚田」に是非お越し下さい。

暮坪棚田の場所はこちらです⇒[\(PDF 1MB\)](#)



農村環境保全指導員(旧鶴岡市)の活動紹介

5月16日、鶴岡市三瀬の竹林で孟宗掘体験が行われました。

この活動は鶴岡市の小笠原指導員が行っているもので、20日には八森山孟宗まつりが開催され、同様の体験が行われます。

本日参加された方々は、地方情報誌をみて事前に申込みを行い、山形市内から来られたということで、「孟宗掘りも初めて、とても楽しみ(こしてきた)」と話していました。ぜひ来年も来たいし、知り合いにも紹介したいと、とても感激して帰っていきましたよ。

小笠原指導員も忙しい農作業等の合間をみてこのような活動をされています。地域外から参加者が訪れ、口コミ等で広がることで地域も明るくなりますので、取組はぜひ今後も続けて頂きたいと思います。



農村環境保全指導員(旧朝日村)の活動紹介

5月20日、鶴岡市大鳥自然の家周辺で、山野草を楽しむ会が開催されました。

参加者は約20名で、この地域の山野草の調査を行っていただいた調査員の方々に先生にみんなでゆっくりと散策しました。

昨年山野草マップが完成し、それを手に見比べたり、写真やメモをとりながら午前と午後約2時間半ほどかけて歩きました。

まだ雪が残っているところもありましたが、気温は25℃と暖かく、今年一番の天気かと思われるほど。

次回は6月17日の予定です。今回とはまた違った山野草がみれると思いますので、参加希望の方は大鳥自然の家(電話:0235-55-2946)までご連絡をお願いします。



【ザゼンソウ】



【大泉鉾山跡地】

部分日食観望会

5月21日(月)の朝、日本の広範囲で日食が観測されましたが、皆さんはご覧になりましたか？山形県内では「金環」にはなりませんでしたが、最大で太陽の9割以上が欠ける部分日食になりました。

各地で観測会が催され、酒田市で開催された「部分日食観望会」には100人以上の市民が参加しました。「眺海の森天体観測館 コスモス童夢」の職員による解説の後、用意された日食グラスを借りて太陽を覗いたら、すでに半分近く欠けていました。

天体望遠鏡も用意され、徐々に欠ける太陽と黒点を観測することもできました。木陰では木漏れ日が三日月状にゆらぎ、立体駐車場の床板の穴から漏れる光もすべて三日月形に・・・。

日食は地球と太陽の間を月が通過する時に、月に隠されることで太陽が欠けて見える天文現象ですが、太陽と月の見かけ上の大きさとそれぞれの地球からの距離により、部分、金環、皆既になります。

次に国内で日食が観測できるのは、金環が2030年6月1日(北海道)で、皆既は2035年9月22日(北関東・中部地方)だそうです。山形県内では2231年3月5日に庄内全域で金環日食が見られるそうですが、それまで長生きするのはかなり難しいでしょうね。



田んぼの学校10周年

5月27日(日)、天気に恵まれ多くの参加者と孟宗掘りと田植え体験がありました。

毎年恒例、添川に孟宗掘り！時期が遅く不作でしたが、今年は珍しい「花が咲いて枯れた竹」があり、山の持ち主の上林さんも生まれて初めて見たと熱く語るほど。新旧交替？時期になると起こる自然現象。

しかし、地下茎でつながった竹が全て枯れるため、新しい竹を伸ばすために抜いてしまうようです。



孟宗掘りをした後に田んぼへ移動

田植えの為の線を付ける作業は、思い切って引かないとまっすぐに引けない難しいものだそうです。引いてもらった線に沿って「はえぬき」を植え、今年は外国(アメリカの方?)の人も上手に日本の田植えを体験し、人数も多かったせいか作業も早くも終わりました。

そのあとは美味しいおにぎりと孟宗汁をクイズとビンゴをしながら楽しく頂きました。

ちなみに英語では

孟宗汁 → バンブースープ

筍 → ベイビーバンブー

と言っていました。



晴天の中で

5月27日(日)は鶴岡市大鳥で毎年恒例の「タキタロウまつり」が開催されました。会場では旧朝日村の特産品販売の他、炭火でのパン焼きや木工クラフト、ドライフラワーアレンジメントコーナー、カヌースクールや魚のつかみどり等も行われていて、午前中から大変なごぎわいでした。

今年で27回目ということで、まだ行かれた事が無い方はぜひ来年足を運んでみてくださいね。



〔 祭り日和 〕



〔炭火でのパン焼き〕



〔魚のつかみどり〕



〔カヌー〕

大鳥タキタロウ村

※ 自然観察学習会 ～山野草を楽しむ～

日 時 6月17日(日) 午前10時～午後2時 (雨天決行)

場 所 鶴岡市大鳥自然の家(鶴岡市大鳥字寿岡112)周辺(地図PDF⇒91.5KB)

参加費 300円

持ち物 雨具・昼食

6月16日(金)申込み締切

保険は各自加入をお願いします。
山野草マップを準備しております。

※ 春の山菜祭り

期 日 平成24年6月23日(土) 9時00分～ (雨天決行)

会 場 鶴岡市大鳥自然の家(鶴岡市大鳥字寿岡112) (地図PDF⇒91.5KB)

参加費 大人 1500円 子供 300円 幼児無料

持ち物 雨天時雨具カッパ・長靴・着替え・軍手その他

9:00 受付開始
9:30 開会行事
10:00 山菜採り出発(ワラビ採りを中心に)
11:30 交流昼食会
14:00 希望者選択活動 ①「朝日音頭を覚えよう・歌おう・踊ろう」
②春の山野草を楽しもう
③魚つり
15:30 解散

6月16日(土)申込み締切

平成24年度 鶴岡市いきいきまちづくり事業 <自然の家活用事業>

春の山菜祭り&祝賀行事は大鳥タキタロウ村

「大鳥タキタロウ村誕生10周年記念」
「23年度むらづくり東北農政局長賞受賞」

大鳥タキタロウ村民 各位

大鳥タキタロウ村民 大 滝 尚 兼
大鳥自然の家所長 大 滝 尚 一

持ちにまった自然の息吹が特に強く感じる季節がやってきました。
村民の皆様には益々ご賛助でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

大鳥の裡み切った空気のなかで 表記にありますように「アキタロウ村誕生10周年」「平成23年度むらづくり東北農政局長賞受賞」を祝い、大鳥タキタロウ村「春の山菜祭り」を計画しました。

今年は大増のため、季節が1～2週間遅れており例年より期日は遅くなりませんが、これまでの取り組みを互いにお祝いしたくご案内致しました。ご活用中とは存じますが村民の多数のご参加をお願いします。

<ワラビ採り風景>

期 日 平成24年6月23日(土)
会 場 鶴岡市大鳥自然の家
日 程 (雨天決行)
8:30 会場準備
9:00 受付開始
9:30 開会行事
10:00 山菜採り出発(ワラビ採りを中心に)
11:30 交流昼食会(昼食メニュー 考慮中)
*自然の恵み山菜料理を準備したいと考えています。
祝賀を兼ねます(アルコールが入ります。飲酒の方は車の運転禁止)
14:00 希望者選択活動(事情により変更もあります)
①「朝日音頭を覚えよう・歌おう・踊ろう」(全員)
②春の山野草を楽しもう
③ 魚つり
15:30 解散

4. 参加費 大人1,500円 子供300円 幼児0円
5. 参加申し込み締切日 6月16日(土) <遅延ハザード>
*持ち物 (雨天時雨具カッパ、長靴、着替え、軍手その他)
*ワラビの必要な方は事前に注文を受け付けます。ハザードが顕微鏡のこと。

大鳥タキタロウ村って？

大鳥地区の過疎化に伴っての地域活性化に向けた村づくり
大鳥の大自然の恵み(山菜・キノコ類)の紹介、大自然に触れる活動の紹介
地域を活用した活動の紹介、村民同士の交流の場の設定、大鳥タキタロウ村
オリジナルの料理の紹介、希望者による栽培活動の提供など多岐にわたるを
活用した村

村民になるには？

現在の村民の数は200名を超えます。一家族代表一名の登録であり、
年間一家族何人参加しても年間500円の通信費をいただいています。
村民構成は、地元をはじめ、県内、東京、群馬、栃木と各県にまたがっています。

入村希望の方は、事務局(大鳥自然の家 0235-55-2946)まで

農村環境保全指導員(旧温海町)の活動紹介

5月28日(月)、鶴岡市立福栄小学校の全校生徒38名がわらび採りとあく抜き体験を行いました。

この活動は農村環境保全指導員の五十嵐さんを始め、出羽商工会温海支所と木野俣自治会、鶴岡市立福栄小学校が一緒に行っていて、今年で4年目になります。

子供達はこのような体験をする機会が少なく、子供の頃に楽しい体験をすることで、将来地元に残ってほしいという五十嵐指導員達の思いがあり実施しています。

約5haのわらび園では年2回の肥料まき等手入れを行っていて、仙台の修学旅行生の受け入れや、広報、新聞等を利用し体験者を随時受け付けているそうです。ご希望の方は出羽商工会温海支所に連絡されてみてはいかがでしょうか。



【あくめき準備】



【灰をかけ熱湯であくめき】

ボランティアで汗をかきました。

6月15日、16日に研修とボランティアを兼ねて飛島に行って来ました。
酒田港から定期船で75分。天候にも恵まれ、きれいなトビシマガソウも見頃でした。

歩いていると、暑い中トビウオをあぶっている人達を発見。天日干しもあちらこちらに見受けられました。

1日目、県営事業で造成した農道の泥上げ作業を行いました。みんな汗だくになりながら、やはり維持管理の大変さを実感しました。

2日目、完成から15年以上経過している農道の橋や舗装面の状況確認を行いました。

飛島自体初めて来た人も多く、みんな行って良かったという印象です。

現地では「とびしま未来協議会」の事務局の方にお話し、飛島についての概要と現況についてお話をいただきました。

このように飛島について話を聞いたり、ボランティアをすることもなかなかないと思います。みなさん是非一度行って見て、体感してください。

本当にのんびりした雰囲気疲れ癒されますよ！



【県営事業で造成した農道です】



6月23日(土)“春の山菜祭り&祝賀行事in大鳥タキタロウ村”が開催されました。大人と子供合わせて80人程の参加があり『大鳥タキタロウ村誕生10周年』と『平成23年度豊かなむらづくり東北農政局長賞』を祝い、これからの発展を願ってお祝いしました。

小雨の中、二か所でわらび採りをして、ベテランの方はわらびを入れる物から違って見つかるのも早く、どれかな〜と思ってる先から次々と採っていくので、圧倒的に採る量の違いがあきらか。そこそこにやっと採れたわらびを持ち帰り。

お昼ごはんは贅沢な山菜づくしのお弁当を楽しみ、その後朝日音頭を体育館で輪になり何十年ぶりに見よう見まねで先生に合わせて踊ってみました。

午後からは天気も回復し、晴れてタキタロウ村散策と魚釣りに分かれて活動。子供中心に少し離れた場所にある池に竹竿で魚釣り。ひとりでは出来なくて大人の手を借りながら楽しんでいました。

なかなか大人も子供も自然に関わるのがすくなくなった中でいろいろなことを楽しめた貴重な時間となりました。



ほら、そこ！



ハア〜♪



魚から針を抜いて



加茂地区の取組

加茂地区では昨年度、地区のマップが完成し、今年度はマップを活用して地域を歩いてもらうための案内板の設置に向けた取組を行っています。

6月24日(日)、東北公益文科大学の渡辺先生による案内板設置に関する注意点や他地区の事例紹介の後、地元住民によるワークショップが行われ、設置場所や記載する内容について話し合いを行いました。

地元の人達もマップの掲載内容を確認しながら、意見を出し合っていました。

7月22日(日)には加茂で「大漁フェスティバル」が開催されます。この機会に完成したマップの配付や、各種イベントも予定されていますので、みなさん足を運んでみてください。



農村環境保全指導員(旧羽黒町)の活動紹介

7月1日(日)に鶴岡市立羽黒第二小学校5年生の親子と先生方、指導員の齋藤さんや笹川土地改良区、地元関係者等が集まり、ブナの植樹作業が行われました。

この活動は笹川土地改良区の21世紀創造運動でもあり、毎年行われています。小学校の敷地内で育てたブナの苗木をバケツに移し、田代谷地ため池脇に植樹しました。

校長先生からは、「羽黒の豊かな自然をなくさないよう維持するために植樹してほしい。自然と共生しているので、後世まで守るために環境学習を行っている。」というお話があり、子供達は真剣に話を聞いていました。

午前中は齋藤指導員の他、保護者や改良区職員等約15名で植樹準備のための下刈りが行われ、大変な手間をかけて継続した活動がなされています。

このような活動が行われていることを広く知っていただくため、今後も参加していきたいと思っています。



笹川土地改良区21世紀創造運動

7月10日、笹川土地改良区主催で地元幼稚園の児童29名が川遊びを行いました。この活動は毎年恒例で、笹川土地改良区その他、旧羽黒町の農村環境保全指導員である齋藤さんや、地元の代表者の方達も一緒に活動を行っています。

子供達は川遊びの後、下の写真のように輪になってスタッフのところに行き、各自自己紹介をしたり、ゲーム「フルーツバスケット」をしたりして交流を図りました。

この他、お土産として金魚や水風船、土地改良区職員手作りの米粉で作ったカップケーキをうれしそうに持ち帰りました。

今からまた来年が楽しみです♪



JA庄内みどりの店内で

7月21日、酒田市曙町にあるJA庄内みどり店内で、今年も「農林水産加工品フェア」が開催されました。

庄内農産加工研究会に所属する19グループのうち、今回7グループが参加し、つや姫米粉パンや米ラスク、庄内砂丘の「おとめ心」を利用したイチゴジュースやさくらんぼ、トマトのジャムの他、鮭の昆布巻きやニシンのやわらか煮など各種販売していました。

次回は1月に酒田と藤島で開催予定ということですが、3月には東京銀座の山形県アンテナショップでの販売も予定しているそうです。

冬の開催では今回無かった商品も販売されるようですので、みなさんぜひ足を運んでみてくださいネ。



IN 加茂

鶴岡市加茂地区では県立加茂水産高校の学校祭に合わせて2年に1回、大漁フェスティバルが開催されています。

今年はちょうどその年にあたり、加茂地区自治振興会などで組織する実行委員会が主催となり、市内の幼稚園児などによる開会セレモニーの後、マグロの切り身や缶詰など水産加工品やズワイガニの味噌汁などの販売の他、プレジャーボートの試乗、鳥海丸の一般公開、貝のつかみ捕りなど朝から大勢の人が集まっていました。

県や市では、昨年度の地域マップ完成までにおける地域活動の紹介(パネル展示)や3月に完成したマップの配付など協力しました。

今後、配付したマップを利用して、地域内外から多くの人を訪れてくれることを期待しています。

また、地域としてもこれから案内板の設置に向けた取組を進めていく予定です。



【開会セレモニーの様子】



【イベント広場の様子】



【地域活動紹介パネル展示】



【プレジャーボートからの眺め】



【鳥海丸の一般公開】

水田の生きもの

先日、庄内ではめずらしく霧の朝になりました。幻想的な風景に誘われて、田んぼ道を早朝散歩。

青々と育っている稲穂の上に、なにやら白い綿のようなものが転々と乗っています。よく見ると、それらはすべてクモの巣でした。

何という種類かはわかりませんが、クモは稲の害虫を食べる益虫といわれています。これだけ多くのクモの巣があるということは、それ以上に害虫が・・・？

稲の根元には、タニシも顔を出していました。水田にはたくさんの生きものが生息していますね。庄内の稲は、まもなく出穂期を迎えます。



家根合地区メダカ保全活動

7月25日(木)庄内町家根合地区にて「家根合地区メダカ保全活動」として学童保育所ふれあいホーム家根合の児童と、今年からメダカ米の生産者も加わり、最上川土地改良区の方々とメダカの引越し大作戦を行いました。メダカの引越しは、中干し作業を行うために、昨年度より実施しているものです。

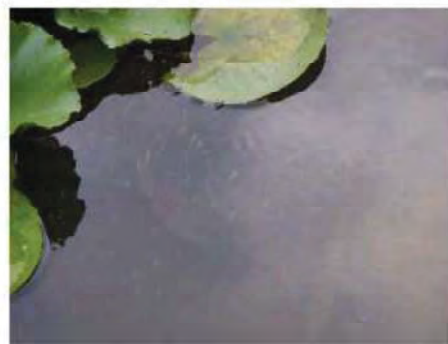
6月7日に田に放流したメダカは約2ヶ月が経過し、順調に増えてきましたが、6月の低温の影響によるものなのか今年は小ぶりなメダカが目立ちました。

メダカ水田の中干しのために水が排水路に流され、そこでメダカを捕まえて、メダカはすぐにNPO家根合生態保全センターの手でメダカ保全池に放たれました。

水田にメダカはいなくなりますが、このまま減農薬で肥培管理を行って行きます。

家根合地区として一押しのメダカ米として販売する立役者のメダカは今年度の活躍を終えました。

中干し:稲の根の発育のために田植え後に田を乾かし、土中に酸素を補給し有害ガスを放出するために行うもの。



【放流されたメダカ】

除草・カヌー体験

7月29日(日)因幡堰土地改良区にて、田んぼの除草とカヌー体験が行われました。

除草講師として庄内総合支庁農業技術普及課が担当。

合鴨を使って有機栽培してる田んぼで除草体験をしました。

合鴨は7月上旬に引上げたそうですが、10aに20羽くらいが標準で、多いと食べる草がなくなって稲を食べてしまい、合鴨が小さい時は天敵(猛禽類など)に襲われるなどもありむずかしいそうです。

稲に似たヒエ科の草もあり、わかりやすい種類を除くのに集中しました。

除草後、八栄島第2揚水機場のファームポンドで2班に分かれてカヌー体験と救命講習。

カヌーは、先生から救命具をつけてパドルの使い方を教わりました。

操縦のコツは、両足の膝をカヌーの内側にしっかりつけて、体とカヌーを一体化すること、左右のパドルを均等に漕ぐことだそうです。

1人乗りと2人乗りのカヌーで思い思いに楽しみました。

救命救急は消防署の方からの講習でしたが、とても暑い日だったため無線をもった講習。

無事出動要請もなく、救急車を待つ間の処置の重要性と、いざという時のために役立つことを学びました。前に講習を受けた方が実際に場面に出くわし、講習が役立ったそうです。



ふじしま夏まつりで

8月5日(日)、鶴岡市藤島体育館北側のせせらぎ水路で、魚のつかみ取り大会が行われました。

毎年恒例となっているこの行事は、因幡堰土地改良区が主催となって実施していて、受付された人数だけで500名、受付されないで参加された方も100名以上いたようです。

5回にわけてイワナを約900匹放流した他、地元の方から提供があった金魚の放流もありました。

イワナの動きに子供たちも悪戦苦闘していましたが、兄弟で協力するなどみんな一生懸命でした。

今年は金魚も持ち帰ることができたので、大事に育てて欲しいなあと思います。

活動経費削減の影響もあるということですが、毎年このイベントを楽しみにしている地域の子もたちのことを思うと、何とか継続してほしいと願います。

また来年もスタッフとしてお手伝いできればと思っています。



わんぱくザッコつり大会

農村環境保全指導員(旧立川町)の活動紹介

8月12日(日)庄内町荒鍋で「わんぱくザッコつり大会」が行われました。

この活動は、県の事業で整備された施設を活用し、豊かな自然の残る地域を誇りに思う子供たちを育てていきたい、という思いから、農村環境保全指導員の小野寺さんの他、荒鍋町内会役員やアサザの会メンバーの方達により8年ほど前から行われています。

小中学生を対象として庄内町広報でお知らせし、当日は13名の参加がありました。

8時から11時の間、自由に釣りを楽しみ、釣った結果に応じて、大漁賞、大物賞、参加賞の発表と副賞が手渡されました。

この近くには風車もあり、周辺もきれいに手入れされていて散策もできます。ザッコつり大会は、毎年8月のこの時期に開催されていますが、この時期に関わらず、また来られたことがない方はぜひ一度おいでください。



大鳥川フェスタ

地域ぐるみの活動


8月16日は、鶴岡市大鳥のタキタロウ館周辺で「大鳥川フェスタ」が開催されました。このイベントは、大鳥観光協会やタキタロウ館の他、大鳥タキタロウ村村民を含む地区住民によって行われています。内容は大鳥川の一角にイワナ等を放流した魚のつかみどりや、溪流ながしそば等です。つかまえた魚はその場でさばいてもらい、食べることもできました。

また、このイベントにあわせて、テレビ広報「はばたくまち つるおか」の取材があり、イベント終了後には大鳥タキタロウ村の取組に関する取材も行われました。豊かなむらづくり全国表彰事業での東北農政局長受賞後、村民加入や来村者、広報取材等も増えてます。今後も活動紹介など、行政としてできる範囲を支援していきたいと思えます。



幻の高級魚

9月8日(土)鶴岡市加茂コミュニティセンターにて『桜鱒のフォーラム』が開催されます。
事前連絡により、桜鱒の素焼きや磯貝汁などを食べることもできるので、ぜひ足を運んでみてください。



山形県の宝 最上川

桜鱒フォーラム

9月8日(土) 加茂コミュニティセンター 午前10時

幻の高級魚

存の日本海でとれる本鱒は桜鱒とも呼ばれ
見た目も味も素晴らしい幻の高級魚です

桜鱒

入場無料

フォーラム内容

- ・[計]「紙芝居」の表彰式、唄紙芝居でお披露目
- ・桜鱒の学習会 山形県内水面水産試験場 専門研究員 河内正行氏
- ・最上川の桜鱒漁法 両羽漁業協同組合 代表理事組合長 阿部興治氏
- ・記念講演 「山形県の魚 桜鱒」の制定 加茂水族館館長 村上龍男氏
- ・桜鱒の賞味堪能会
(桜鱒素焼き、つや輝おにぎり、磯貝汁、地場漬物他) 希望者のみ →
- ・泳ぐ桜鱒観賞会 (加茂水族館館長 案内)



受付はこちらまで

NPOみなと研究会 0234-25-2817
A速(担当守屋) 940-6016-2626

主催：NPOみなと研究会

この事業は、「うまい」を明日へ！「山形の宝」継承活動支援としてアサヒビール株式会社の
ご寄付を活用した山形社会貢献基金の助成事業により実施するものです。


ヒマワリ畑

今年も鮮やかに

今年も畑一面にひまわりが咲いています。

庄内でこんなにひまわりが見れる場所はないかもしれません。
見ごたえある時期は今だけ！ぜひ一度ご覧下さい。

場所は庄内映画村に向かう途中に左側に看板があるので見逃さないで下さいね。

ヒマワリ畑の場所は[こちら](#)  ⇒ [簡単な地図\(PDF 40KB\)](#)



榎島ほうきび

「ほうきび」の刈り取り

8月25日(土)庄内町榎島(まぎしま)で、地区で作られている「榎島ほうき」の材料となる「ほうきび」の刈り取りが行われました。

作業は午前6時から始まり、約50人が参加。6月の初旬に定植した時は15cm程度でしたが、2mを超えるまで伸びていました。

ほうきの掃く部分となる穂に、柄となる80cmの茎を付け、剪定鋏で刈り取ります。穂や茎は以外と堅く、榎島地区に代々伝えられた「ほうきび」の固有品種の特性だそうです。この堅さが、20年は使えるという榎島ほうきの秘訣ではないでしょうか。

午前10時過ぎで刈り取りが終わり、乾燥させるための前作業として葉を取りました。

昼食と昼寝の十分な休憩を入れて作業を再開し、ほぼ1日の仕事となりました。

しかし、大変なのはこれからのようで、天日で2~3週間、脱穀してさらに天日で約2週間乾燥させます。その際に雨に当たらないように、こまめに出し入れします。こうしないとカビが発生するそうです。

このように手間をかけても使えるのは、刈り取ったものの6割程度だそうです、大切に扱わなければと改めて感じました。



良く実ることが重要



葉を取った状態、穂を下にして乾燥
(実が重石になり穂がまっすぐになる)



刈り取り作業(穂と茎80cmだけ)



榎島の集落(最上川側から)

八久和ダム研修

東北電力さんのご協力により

8月31日、鶴岡市上田沢の八久和ダムに関する現地研修を行いました。

この研修は、東北電力株式会社山形支店及び酒田技術センター赤川ダム管理所の職員の方のご協力により、ダムの概要や施設の構造、管理設備等について説明をしていただきながら、ダムや管理所の内部を案内していただきました。

八久和ダムは庄内平野への灌漑用水供給、河川増水時の下流域への増加量の抑制の他、最大の目的となる水力発電で電気の安定供給などに貢献しています。

3130万 m^3 (東京ドーム約25個分)の水を貯めることができ、ダムの高さは97.5mでビルの約23階建に相当するそうです。

こんなに大きなダムですが、強度検査や漏水量、外観調査など、もちろんきちんと健康診断しているそうですよ。

なかなか見学できない施設で、大変貴重な体験となりました。

ご協力頂いた東北電力株式会社職員の皆様、本当にありがとうございました。



夕日の暮坪

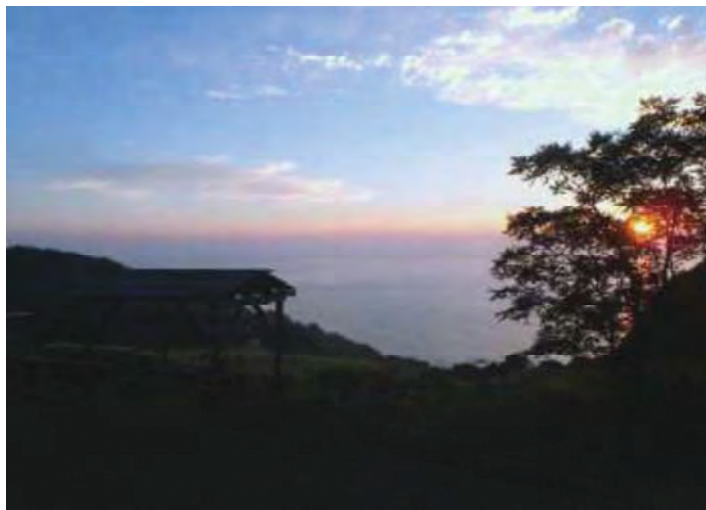
きれいですね。

鶴岡市暮坪の棚田、夕方6時すぎの様子です。
夕焼けのシャッターチャンスに恵まれました♪

ここでの稲刈りは9月23日の午前中に行う予定で、地域の親子と一緒に手刈りで杭掛けを行います。
(稲刈りの様子は後日掲載予定です。)

季節の変化と共に棚田の様子が変わり、また違った雰囲気を感じますので、みなさんぜひ一度足を運んでみてください。

暮坪の棚田への行き方は[こちら](#) ⇒ [地図です\(PDF 1MB\)](#)



因幡堰稲刈り体験

シーズンですね。

9月23日(日)、毎年恒例になっている因幡堰土地改良区「田んぼの学校」の稲刈りが行われました。

この日は各種イベントが重なったため、いつもより参加者も少なかったのですが、おなじみのベテランの方が多く参加してくださったおかげで、早く作業が終わりました。

一年一度しかやらない稲を縛る作業は最初忘れていて、やりながら思い出し、思い出したところで終わる・・・来年また思い出せるかなあ。

去年よりはちょっとうまくいったのか、杭掛けのときにバラける・・・ってことが少なかったかも。

刈り取りが進み、稲株が残り少なくなると、追い詰められた蛙やイナゴが一斉に飛び出して子供たちは大喜びでした。

作業も終わりお昼はクイズを兼ねたおにぎり3個と庄内風芋煮(味噌味、豚肉)。

おにぎりは全部違う銘柄のお米でつや姫、ひとめぼれ、はえぬぎの新米。どれもおいしく、違いを見つけるのがむずかしい問題でした。

今回に限らず、毎回企画から準備、後片付け等、改良区職員の方には本当に頭が下がります。



手刈りと杭掛け

地域の人達の手で

鶴岡市暮坪地域で毎年恒例の稲刈り体験が9月23日(日)に行われました。今年も地域住民25名ほどが参加して、子供から大人まで一緒になり約2時間かけて手刈りと杭掛けを行いました。

この日は曇り空でしたが、時折うっすらと青空も見え、遠くには粟島も見え、丁度よい稲刈り日よりでした。

春にみんなで田植えした田んぼは、この夏の暑さにも負けず、りっぱに稲が稔っていました。今年は株が大きく、良いできだそうです。

ここは夏でも沢水が途切れないので、水不足は心配なかったとの事。きっとおいしいお米になっていると思います。

